授業の「湖南市スタイル」

その1　本時の「めあて」を自覚する

その2　課題に対する自分の考えを書く(もつ)

その3　それぞれの考えを交流する

その4　めあてに応じた「まとめ」をする

その5　学習を「ふりかえる」
(学んだことを自覚する)

子どもの思考・つぶやき

今日もいっぱい勉強したい。
どんな意見が聞けるかな。
調べてみたいな。　先生が笑顔で迎えてくれる。　学校が楽しみ。

おや?
なんだろう?　どうして?
おもしろそうだな。
もっと知りたい。　できるようになりたい。
今日は〜〜しよう。　○○に挑戦しよう。

よし!文章にまとめてみよう。　自分の考えは○○だ。
うまく書けないけど、こんな言葉を使って説明するんだろうな。
図に書いてみよう。
友だちはどう考えているのかな?
自分の考えを聞いてほしい。話したい。

○○さんと一緒だ!
●●さんとは考えが違う。
なぜ、そうなるの?　教えて。
こんなふうにも説明できるのか。　なるほど。
□□さんの意見を借りて自分の考えを補足しよう。
こう思うよ!　教えてあげたい!

スッキリ!　わかったぞ!　できた!
新たな疑問が出てきた。

今日は○○ということがわかった。
はじめはできなかったけど、今日‥‥ができるようになった。
友だちの一一が参考になった。
次は、●●ができるようになりたい。
今日は□□がわかったけど、■■はどうなのかな。
もっと〜〜がしてみたい。

なぜ「授業の湖南市スタイル」？

平成２９年３月、文部科学省から新学習指導要領の告示がありました。今回の改訂の趣旨は、「一方的に知識を得るだけでなく、『主体的・対話的で深い学び』を実現するために、授業改善をさらに充実させ、子供たちが、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることを目指します。」とされています。

子どもが主体的に、そして対話的に深い学びを追究していこうとする姿と、「授業の湖南市スタイル」によって実現しようとしている学びの姿には、相通ずるものがあります。いずれも、どの子にも学ぶ楽しさを味わわせ、学びのスキルを身につけることを大切にしているからです。

２年間の「授業の湖南市スタイル」で明らかになってきたこと

- 型に固執するあまり、子どもの思考を置き去りにしてはいけない。
- 「めあて→活動→まとめ」に一貫性があり、「めあて」を実現する授業になっていること。
- １単位時間で「スタイル」が完結するとは限らない。年間計画、単元計画における位置づけを大切にすること。
- 教科等の特性によって、「授業の湖南市スタイル」の進め方が変わってくることがある。
- 「授業の湖南市スタイル」の本質を見失わず、授業の進め方ををさらに工夫していきたい。
- 「授業の湖南市スタイル」には、型から始める第１段階から質の高まる第ｎ段階まである。様々な実践によってその段階を高めていくことが求められる。

主体的・対話的で深い学びを実現し、
夢と志を育て、生きる力の根っこを太くする

授業の湖南市スタイル

湖南市教育委員会
平成 29 年３月

授業の湖南市スタイル

授業の具体と教師のはたらきかけ

その0　環境を整える

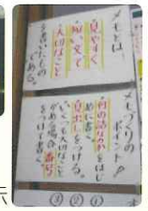
子どもが安心して、意欲をもって学べるように準備をする。

整えられたきれいな教室（黒板・机・いす・ロッカー・棚・床・掲示板等）
学びの足あと　学び方の掲示
子どもの学ぶ姿勢・座り方（机・いすの高さ）・鉛筆の持ち方・丁寧な文字
先生と子ども、子どもと子どものあたたかな関係
教師の表情　話し方　教材研究（授業の準備）

教師の笑顔

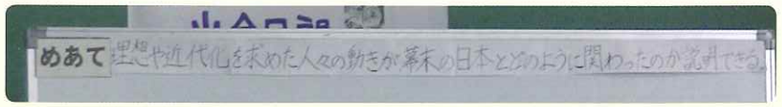
整えられた教室

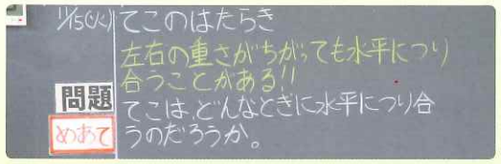
きれいな黒板


学びのあしあと、学び方掲示

その1　本時の「めあて」を自覚する

子どもが単元における本時の位置を確認する。
子どもがゴールを自覚する。　子どもが授業の流れを見通す。





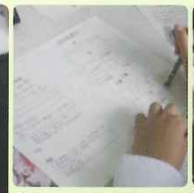
子どもの実態や授業の内容によって、示し方は内容レベルにも、活動レベルにも。

子どもの主体的な学びの実現は、まず、子どもにとって必然性のあるめあてを子どもの言葉で設定することから始まります。そうすることで、子ども自身がゴールを自覚し、身につく力を意識して取り組むことができるようになります。また、学習の流れを確認することで、自分がなすべきことがらや手順について意識を高めることができます。

その2　課題に対する自分の考えを書く（持つ）

子どもが課題に向き合い、様々な考えを持つ。
子どもが複数の方法でアプローチする。

時間内にできることを設定（枠の大きさ　文字数　時間の設定）
支援の手立てを準備するためにも、教師自身が書いてみる。
どの子も自分の考えを書ける（持てる）ように個別に支援をする。
困っている子には、モデルを提示（対話への促し　声かけ　確認等）
時間短縮のために、宿題や予習で取り組ませるのも一つの方法



書きやすいワークシート。挿絵や図表が思考の助けになる。具体物を操作してから書く方法もある。

その3　交流することで考えを深める

子どもが学び合い、多様な考えにふれることで、
自分の考えを広げたり、深めたりする。

ペア学習

グループ学習

全体交流

全体交流

グループ学習

全体交流

交流のパターンは様々

何のために交流するのか、その目的が明確でなければ効果はあがりません。目的が明確になれば、どんな形態で行うのがよいか、どんな内容で交流するか、交流の回数などを考えます。考えを広げるための交流か、まとめるための交流かによっても異なります。その際、はっきりとした指示を出すこと、時間を延長しないこと、用いる教材・教具を工夫することなどを忘れずに。

その4　めあてに応じた「まとめ」をする

多様な考えや深まった考えを分類・整理し、
共通理解事項としてわかりやすくまとめる。<教師の仕事>

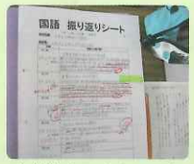
子どもから出てきた言葉をつなぐ。
教師がファシリテートしまとめるが、子どもの満足感・成就感を大切にする。

子どもから出てきたことを元に。
まとめは教師の出番

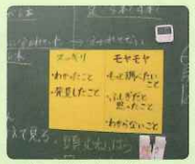
その5　学習を「ふりかえる」

子どもが本時や単元の学びを自覚する。
子どもが次の学びへの意欲を持つ。

じっくり書く
考えや思いを整理する時間。書く力がつく。



1単元で1シート
学びの流れ、考えの深まりを概観できる。


書く視点がある
めあてを意識させ、学習を自己評価させる。

マス目で字数制限
あえて制限した字数でまとめる。制限なしもOK

時間がとれないまま、授業の終わりを迎えることがよくありますが、ふりかえりは学習内容や方法を自覚させ、定着させるために欠かすことができません。5分間程度は確保できるように、ここに至るまでの時間配分を考えましょう。また、書きっぱなしではなく、次の時間に生かせるように、授業外であってもその内容について子どもとじっくり話す時間をとりたいものです。